

📊 週刊マーケットレポート - 2025年6月7日

📁 目次

1. 📊 エグゼクティブサマリー
2. 📈 為替市場の動向
3. 🇯🇵 日本経済
4. 🇺🇸 米国経済
5. 🇨🇳 中国経済
6. 🌐 その他の地域
7. 📅 来週の注目ポイント
8. 🎯 マーケット見通し

📊 エグゼクティブサマリー

💡 キーポイント: 雇用統計好調で株式市場が上昇、S&P 500が6,000ポイントを回復

今週の金融市場は、予想を上回る雇用統計を受けて大幅上昇で週を終えた。S&P 500指数は1.5%上昇、ナスダックは2.2%上昇し、ダウ工業平均は1.2%上昇した。これは2週連続での上昇となり、5月の好調な相場の勢いが6月に入っても継続していることを示している。

主要株式インデックス (週間)

指数	終値	週間騰落率	年初来騰落率
S&P 500	6,000.36	+1.5%	+2.0%
ダウ平均	42,762.87	+1.2%	+0.5%
ナスダック	19,529.95	+2.2%	+1.1%
VIX指数	16.77	-9.3%	-

📈 為替市場の動向

主要通貨ペア

通貨ペア	現在値	週間変化	月間変化
USD/JPY	144.85	+0.9%	-0.7%
EUR/USD	1.139	横ばい	-
GBP/USD	1.352	-0.3%	-
USD/CAD	1.369	+0.1%	-

 **ドル円の動向** ドル円相場は144.85円で週を終えた。金曜日の雇用統計発表を受けて0.9%上昇し、年初から約7.6%の円安水準となっている。しかし、日本銀行の金利引き上げ期待が根強く、更なる円安は限定的との見方が強い。

専門家の間では、2025年末には145.55円程度まで緩やかに円安が進むとの予想が多い一方、日銀の政策転換により140円台前半まで円高に振れる可能性も指摘されている。

日本経済

主要指標

- 日経平均株価: 37,741.61 (+0.5%)
- TOPIX: 横ばい推移
- 10年国債利回り: 1.458% (-0.002)

ハイライト

日本市場は米国株高の恩恵を受け、日経平均は小幅上昇した。しかし、円安の一服や輸出関連株への警戒感から上昇幅は限定的だった。

今週発表された4月の家計支出は前年同月比で減少しており、個人消費の回復ペースの鈍さが改めて浮き彫りになった。日銀の利上げ観測は継続しているものの、経済指標の弱さから慎重な政策運営が予想される。

米国経済

主要指標

- 10年国債利回り: 4.506% (+0.11)
- 30年国債利回り: 4.966% (+0.08)
- 失業率: 4.2% (変わらず)
- 非農業部門雇用者数: +139,000人 (5月)

ハイライト

5月の雇用統計は予想を上回る139,000人の雇用増加となり、市場の懸念を払拭した。失業率は4.2%で変わらず、時間当たり賃金は月間0.4%、年率3.9%上昇した。

雇用の半分近くがヘルスケア部門（62,000人）で占められ、レジャー・接客業が48,000人、社会保障関連が16,000人の雇用を創出した。一方、連邦政府部門では22,000人の雇用が減少した。

 **重要:** 過去2ヶ月の雇用者数が95,000人下方修正されたものの、労働市場の底堅さが確認された。

中国経済

主要指標

- 上海総合指数: 3,385.36 (+0.04%)
- 深セン成分指数: 10,183.7 (-0.19%)
- ハンセン指数: 23,792.54 (-0.48%)

ハイライト

中国市場は軟調な推移が続いている。米中貿易協議の進展への期待がある一方、製造業の低迷や不動産市場の回復の遅れが重石となっている。

中国人民銀行は5月も金購入を継続し、7ヶ月連続での購入となった。これは人民元安に対する備えや米ドル依存の軽減策と見られる。

その他の地域

欧州

指数	終値	週間変化
FTSE 100	8,837.91	+0.3%
DAX	24,304.46	-0.08%
CAC 40	7,804.87	+0.19%
STOXX 600	553.64	+0.32%

欧州中央銀行（ECB）の政策決定後、欧州株式市場は小幅上昇で推移した。ECBシュナーベル理事は、FRBとの政策乖離に関する懸念を示唆している。

 **英国** イングランド銀行のグリーン理事は、インフレの「こぶ」に対して楽観視していないと発言し、慎重な金融政策の継続を示唆した。

 **スイス** UBSの株価は、スイス政府が提案した厳格な新資本規制を受けて3.8%上昇した。

来週の注目ポイント

経済イベントカレンダー

日付	時刻	イベント	重要度	予想値
6/10 (月)	17:40	日本GDP (第1四半期)	● 高	-0.2%
6/10 (月)	21:00	日本経常収支 (4月)	● 中	-
6/11 (火)	21:30	米国消費者物価指数 (5月)	● 高	-
6/12 (水)	03:00	FRB政策金利発表	● 高	据え置き予想
6/13 (木)	21:30	中国消費者物価指数 (5月)	● 中	-

🎯 注目ポイント

1. **日本のGDP改定値**: 第1四半期の成長率改定値が注目される
2. **米国CPI**: タリフの影響が初めて反映される可能性
3. **FOMC会合**: 利下げ観測の行方
4. **ブラックロック投資家向け説明会**: 機関投資家の動向
5. **アップルWWDC**: AI関連発表への期待

🎯 マーケット見通し

🧠 短期見通し (1-3ヶ月)

強気要因:

- 雇用市場の底堅さ
- 企業業績の堅調さ
- タリフ懸念の後退

弱気要因:

- 高水準の長期金利
- 地政学的リスク
- 中国経済の減速懸念

💡 **投資戦略**: リスク選好の回復が見込まれるが、金利動向に注意が必要

📊 中期見通し (3-12ヶ月)

S&P 500は年末6,050-6,550ポイントのレンジでの推移が予想される。複数の投資銀行が目標値を引き上げており、「ピークタリフ不安は過ぎた」との見方が広がっている。

リスク要因:

- FRBの政策転換
- 米中貿易協議の行方
- 企業収益の成長鈍化

⚠️ リスクシナリオ

1. **タリフ再激化:** 米中協議の決裂
2. **金融政策誤算:** 予想外の利上げ
3. **地政学的ショック:** 新たな国際的緊張

📁 投資アドバイス

推奨セクター:

- ヘルスケア（雇用増加トレンド）
- テクノロジー（AI関連）
- 金融（金利上昇恩恵）

警戒セクター:

- 公益事業（金利上昇リスク）
- 不動産（REITs）
- 消費者サービス（インフレ圧力）

⚠️ ディスクレーマー

本レポートは情報提供を目的としており、投資勧誘や投資アドバイスを目的としたものではありません。本レポートに記載されている情報は2025年6月7日時点のものであり、その正確性、完全性、または適時性を保証するものではありません。

本レポートの内容に基づいて行われる判断や行動、またはそれにより生じる結果について、当社は一切の責任を負いません。投資判断は投資家ご自身の責任において行ってください。過去の投資実績は将来の投資成果を保証するものではなく、投資には常にリスクが伴います。

本レポートは主要金融情報サイトの最新データに基づいて作成されました。